

令和8年度 鹿児島女子短期大学 学校推薦型選抜

入学者選抜試験問題

# 小論文

**【設問】**課題文において筆者は人口減や空き家の増加の問題について将来像を描けないと述べているが、「地方創生」について、あなたはどのように考えるか。課題文を踏まえ、地方にどのように貢献・関わっていきたいか、具体例を挙げながら、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

**【課題文】**

人口減や空き家の増加、墓じまいの状況を見聞きするたび、胸が締め付けられる思いがする。

鹿児島市から車で1時間ほどにある実家のことが頭をよぎるからだ。市街地を抜けて峠を越えると、田んぼが広がる。その先の里山に築70年を超える古い家がぽつんと建っている。空き家になって2年以上たつ。

地域は過疎の波にあらがえず、都市部よりも早く空き家や墓じまいが目立つようになった。

病院や商店に行くには不自由な場所だ。家周辺の草刈りには難儀する。

遊びや学びの場が多く、便利な都市部と比べ「田舎には何もない」と長いこと思ってきた。だが、実家の畑で農作業をするようになって都市部にはない豊かさに気付くようになった。

春になるとタケノコ掘りができる。ゴールデンウィークの頃にはお茶の葉を摘む。ウメ、ビワ、モモ、クリ、カキ、ミカン…。季節ごとにいろんな果実が収穫できる。手を入れなくても、季節が巡るとそれなりに実をつける。それらの何とおいしいことか。

この冬は野菜の高騰が話題になるが、畑のおかげで旬の野菜をスーパーで購入することはあまりない。

そうした面で恵まれた地域であっても、過疎は進むばかりだ。

「地方創生」が言われるようになって久しい。国政選挙のたびに「地方再生なくして日本の将来はない」と威勢のいいフレーズを耳にしたが、言葉通りには進んでいない。それどころか国全体の人口は減り、地方の衰退に歯止めはかからない。

(中略)

どうすれば里山の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらえるのか。食料供給地でもある里山が空き家だらけで、荒れ果てた地域になっていいはずがない。だが、コレといった処方箋がなく、将来像を描けないのがもどかしい。

---

出典：編集部長・田中優子「風向計」(南日本新聞・朝刊2025年2月3日(月))

※一部改変しています